

1. 調査報告概要表

作成日平成21年9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1090400084
法人名	医療法人 原会
事業所名	グループホーム 銘仙の里
所在地	群馬県伊勢崎市平和町19-10 (電話) 0270-20-1211

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年8月12日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 7 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9人
利用定員数計	9 人
常勤	8 人
非常勤	1 人
常勤換算	7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火・鉄骨 2階建て 1 階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	円
または1日当たり				

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	絵 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	78 歳	最高	94歳 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社団法人 伊勢崎・佐波医師会病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢者複合施設の中のグループホームという位置づけで開設され、施設1階の正面玄関脇にある。多くの人が入り出するため、活気があり、外観はカフェテリアのようで、既存の施設とは一味違った存在感がある。管理者・職員がみんなの気持ちをすり合わせて作成した理念は「みんなが仲良く、笑いが絶えない家、地域・家族・人が集まる家、その人の持つ、個性が生かせる家」であり、理念から系列の複合施設内の他の施設とはケアの方法が違うことを『家』が示している。散歩には毎日のように出かけ、地域の人たちと馴染みになるように努力している。開設1年目で、まだまだ管理者・職員が試行錯誤しながら理念の実践に向けて努力している最中ではあるが、努力の姿勢が見える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	2008年7月に開設され、今回が初回である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 初回のため管理者とケアマネジャーが作成し、出来上がりを職員に見てもらった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者・家族・地域住民・市職員が参加し、21年2月から概ね2ヶ月に1回開催されている。ホームの状況・行事報告や認知症に関する説明を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回「生活に関するアンケート」調査を行い、本人の希望等把握しようと工夫している。グループホーム新聞「銘仙の家」を月に1回発行して予定や前月活動報告等写真付きで掲載している。苦情受付窓口(管理者)が明記されており、出された意見や要望等には、職員間で話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事(七夕祭・文化祭に出展等)に参加したり、ミニデイ参加を企画したり、近所の書道の先生に書道教室(月に1回)をお願いして地域との関係を大事にしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を職員全員で作りにあげている。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は月に1回の職員会議・毎夕のカンファレンスで周知して意識づけを行い、グループホーム新聞にも理念を掲載し家族等にも周知している。ホーム内にも掲げ、理念の周知・共有を図っている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達には散歩時に挨拶をしたり、地域の行事(七夕祭・文化祭に出展等)に参加したり、ミニデイ参加を企画したり、近所の書道の先生に書道教室(月に1回)をお願いして地域との関係を大事にしている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての自己評価は管理者とケアマネジャーが作成し、出来上りを職員に見てもらった。外部評価の結果については運営推進会議で公表するつもりである。	○	自己評価の意義を全職員で共有するためにも、次回は全職員で作成して日ごろのサービスを振り返る機会に利用してほしい。今回の外部評価の結果も全職員で検討しサービスの質の向上に繋げていってほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者・家族・地域住民・市職員が参加し、21年2月から概ね2ヶ月に1回開催されている。施設の状況・行事報告や認知症に関する説明を行っている。地域のバリアフリーの状況を聞いて、外出に生かしている。外部評価結果を議題に挙げるつもりである。	<input type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者は協力的で介護保険制度で不明な点は相談にのってもらっている。グループホームを含んだ複合施設は中心市街地の活性化に一役買っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年1回「生活に関するアンケート」調査を行い、本人の希望等把握しようと工夫している。グループホーム新聞「銘仙の家」を月に1回発行して予定や前月活動報告等写真付きで掲載している。家族等の来訪時には、利用者の健康状態や生活状況・金銭報告等を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「生活に関するアンケート」で出された、本人の要望・希望に基づき希望に沿うように工夫している。運営推進会議や家族等の来訪時には、日ごろの様子を伝えることを心掛け、話しやすい雰囲気づくりに留意している。意見箱を設置して苦情・相談担当者の写真を掲示し意見を伝えやすいようにして、出された意見は話し合い、運		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来離職者はいない。1年が経ち、挨拶や声掛けを行い利用者と職員が顔なじみになってきていることを管理者は感じている。今後異動があった場合には、マニュアルが作成されているのでマニュアルを参考にしながら、常勤3ヶ月経過した後先輩職員と夜勤を1日経験してから独り立ちしてもらおう予定である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、基礎研修に申し込んでいる。施設内研修(接遇研修等)に参加している。研修参加者はミーティングで報告を行い、共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会には加入していないが、法人内のグループホームとは相談し合える関係にある。	○	開設後間もないが、他法人のグループホームと交流の機会を持って、情報交換や勉強会を通して、サービスの質を高めていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族等と面談や見学・体験入所をしてもらって、ホームの雰囲気や様子を見たもらった。また信頼関係を築く努力をしている。入居当日も職員が寄り添ったり、本人・家族と話をして、一人ひとりに合わせた対応をしながら本人の情報を職員で共有するように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴や経験を大切にして、畑の水遣りやおやつ作りを通して、有りがたかったこと、うれしかった気持ちを大事にして利用者と共に支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年1回「生活に関するアンケート」調査を行い、本人の希望等把握しようと工夫している。外食の希望が挙がり、月に1回実施されている。本人の言葉や表情、行動等から理解するように心掛けている。家族等からも情報を得て、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等から希望を確認して、介護計画に反映させるようにしている。職員はプランを意識付けるために、担当制(1人から2人)でプランを作り、職員間で話し合い、それぞれの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と月に1度のモニタリングを行っている。状態の変化が生じたときは、随時職員間でカンファレンスを行い、本人・家族等に確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合施設内の機械浴槽を体調の変化時には使用することや催し物(慰問)への参加が出来る。本人・家族等の希望で文化会館に出かけたり、通院支援や買い物支援に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の意向を確認して、かかりつけ医から定期的な往診がある。かかりつけ医とは24時間連絡可能な体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「看取りに関する指針」と「終末期における意思確認」が明記されている。終末期の状態になったとき、本人や家族、職員、医師、看護師等と話し合い、その時々々の家族の意向を確認しながら、終末期を迎えることを共有化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は馴染みの関係を保ちながらも、職員には敬意をもった言葉かけや対応を心がけてもらいたいと思っている。施設内研修で接遇や個人情報保護について職員意識向上を図っている。個人記録の取り扱いに関しては適切に取り扱っている。職員の入職時に個人情報保護について誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた、食事時間・排泄・テレビ観賞等の支援や声かけを行い、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
tok					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は複合施設内の栄養課が作って、利用者は力量に応じて、運んだり、味噌汁をよそったり、お茶を入れたり、下膳している。「生活アンケート」で嗜好調査を行い、イベント時や外食時お誕生会等で生かしている。漬物を漬けたり、軽食はホームの調理場で作って楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週3回の入浴となっているが、日曜日以外は希望により入浴できるように支援し、入浴時間も本人のペースを大切にしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる能力を大切に、洗濯物(干し・たたみ)・掃除・食時の準備・盛り付け・食器洗い・水遣り・ゴミ捨て等を楽しみながら継続できるよう役割の支援をしている。書道教室・オカリナ・八木節観賞・外食・買い物・花火大会・植物・野菜の世話・ピクニック等や家族への電話や手紙を書くことで、楽しみごと・気晴らしの		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	テラスでの外気浴及び天候や利用者の体調・希望に応じて、散歩・ドライブ・買物・季節の花見・外食等に出かけており、日常的に外出支援が行われ気分転換が図られている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	複合施設玄関の横にホームの出入口がある。ホームの入り口は暗礁キーで施錠されている。利用者が外に行きたい時は職員付き添いのもと外出している。	○	職員の見守りにより利用者の安全を確保しながら、日中の数時間からでも、玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設後1月と5月に消防署立会いの下で複合施設全体での消防訓練を実施している。緊急時のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた家庭料理を栄養課の管理栄養士・栄養士等により提供されている。食事摂取量は記載しているが水分量についての記載はされていない。	○	水分が必要な場面での水分補給は行っているのですが、個別の水分量のチェック欄を設けるなどの工夫で、1日の総水分量の記録を通して、水分確保の支援を行ってほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には明るい日差しが差し込み、テラスの鉢植えや植物の成長が楽しめる造りになっている。壁には習字教室の作品が並び、次回作に意欲が沸くように掲示されている。食事時のテーブル・椅子・テレビやソファを配し、居心地よく過ごせる共用空間が確保されている。ホームのテラスからは、複合施設の来訪者を見ることができるので、人との繋がりが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には障子をはめられ、カーペットが敷き詰められていて、窓からは生垣が見え、落ち着いた雰囲気がある。椅子・箆笥・衣装ケース・テレビ・写真・時計・作品・化粧品等の自宅で使用した馴染みのものや好みのものが持ち込まれている。		